

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興

～障害者スポーツの振興と地域交流の推進～



千葉県立千葉特別支援学校

電話 043-257-3909

FAX 043-257-2226

研究のポイント

特別支援学校を拠点とした障害者スポーツの振興について、児童生徒がより身近に障害者スポーツに触れる学習活動や地域交流活動を設定及び実践し、その効果や課題について明らかにし、特別支援学校から発信する障害者スポーツの振興の在り方の一例について整理する。

■学校の概要

<https://cms1.chiba-c.ed.jp/chiba-sh/>

平成3年に開校し、主に知的障害のある児童生徒が通う学校であり、花見川区、美浜区、稲毛区を学区として小・中・高等部の児童生徒243名が在籍している。

本校は、県内の学校体育の充実と障害者スポーツの普及に関する拠点として千葉県特別支援学校体育連盟の事務局が置かれている。

■研究課題

特別支援学校を地域における障害者スポーツの振興拠点として、特別支援学校の児童生徒にとって、障害者スポーツを身近なものとするとともに、地域の小・中学校等との交流を深めることにより、障害者に対する理解を深めるための実践研究を行う。

■研究の目的と方法

【目的】

- ・障害者スポーツのトップアスリートとの交流や障害者スポーツに関する研修会を通して、児童生徒が障害者スポーツを知り、体験する機会を創造する。
- ・障害者スポーツをとおした交流により、より良い交流の機会と障害者理解について啓発を図る。

【方法】

- ・「Ⅰ 障害者スポーツ普及・啓発」、「Ⅱ 交流及び共同学習」、「Ⅲ 校内での取り組み」の三つの柱を立て、柱ごとに研究実践を行い、それらの結果について総合的に分析する。
- ・トップアスリートとの交流会や学校間交流において、参加者に対し障害者スポーツや障害者について、事前事後に意識調査を実施し、その結果について考察を加える。

■研究概要

1 実践と成果

I 障害者スポーツの普及・啓発

(1) 特別支援学校体育連盟事業でのアスリート招聘

〔特別支援学校体育連盟主催事業にトップアスリートを招聘し、生徒との交流を通して障害者スポーツの理解・啓発を図る〕

○高等部スポーツ大会・ボッチャ大会、中学部駅伝大会

各競技（サッカー、ボッチャ、駅伝）選手の模範実技を間近で見たり、一緒に協議をしたりして、トップレベルのスピードや技術に触れることで、意欲的に活動に参加する様子が見られた。大会後に障害者スポーツについてインターネットを使って調べる生徒もいた。

(2) 特別支援学校体育連盟事業での教職員への障害者スポーツ講習

〔特別支援学校教職員に対して障害者スポーツのルール・技術指導を行い、児童生徒の指導への一助とする。〕

○特別支援学校障害者スポーツ研修会（シッティングバレーボール）

教職員が障害者スポーツのルールや技術を学ぶことで、研修会後に各校の体育指導において用具やルールを工夫し、授業に取り入れるなど、児童生徒が直接、障害者スポーツを体験する学習活動の基礎作りを行うことができた。

II 交流及び共同学習

(1) アスリート招聘による交流授業

〔本校行事にトップアスリートを招聘し、児童生徒との交流をとおして障害者スポーツについて理解を深め、運動に対する意欲の醸成を図る〕

○中学部プール開き、陸上交流授業、ボッチャ地域交流

各競技（水泳、陸上、ボッチャ）のトップアスリートと交流授業を行うことで、ルールや技術について指導を得た。特にボッチャ交流授業には地域の自治会の方を交えた授業に選手も参加し楽しむことができた。

(2) 地域との交流

〔交流授業で障害者スポーツをとおして、お互いを知り共感できる体験の機会を創設する〕

○自治会の方や近隣校学校児童生徒（中学校2校、小学校2校）との交流授業

自治会の方や近隣学校の児童生徒とボッチャ競技をとおして交流授業を実施した。当日の交流授業前と授業後にアンケートを実施し、障害者スポーツについての意識調査を実施した。特別支援学校の生徒に対する障害者スポーツの技術レベルの高さを評価するコメントも聞くことができた。

III 校内での取り組み

(1) パラリンピックロードの作成

本校生徒にも馴染みのないパラリンピック種目について、体育館前の廊下を、「パラリンピックロード」とし、児童生徒会が主体となって掲示物の作成を行い、障害者スポーツについての紹介コーナーの作成を行った。

(2) パラリンピック種目の授業導入

特別支援学校障害者スポーツ研修会に参加した職員を中心に、高等部での体育の授業にシッティングバレーの単元を導入し、近隣学校との交流授業を実施することができた。

2 今後の課題

今年度は、児童生徒が馴染みある競技の体験が多くあったが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、より興味関心を持って、より身近なものとするためには、興味関心を持ったスポーツに主体的にかかわることができるような環境づくりや更に様々な競技を知る機会が必要である。